

医療と人権

科目責任者 竹 内 高 明
 学年・学期 1 学年・2 学期

I. 前 文

現代の科学技術発展に基づく工業化社会において、健康影響をもたらすさまざまな事象が発生し、その責任の所在が法廷でも問われることとなった。その過程には、医師がさまざまな立場から関わっていた。また、健康被害を受けた人々の救済措置が制度化されるまでに、国・企業・学者・医療関係者・報道関係者と被害者自身の間で、さまざまな葛藤・対立あるいは協力の関係が生じた。本講義では、それぞれの事例について検証しつつ、現代の社会と医療現場での人権のあり方を考えていく。

II. 担当教員

木 村 真 三・竹 内 高 明

III. 一般学習目標

日本と世界の現代史において人間の産業活動がもたらした諸問題と医学との連関を知り、それらの問題の発生と解決にあたって医療・医学がどのような役割を果たしたかを学ぶことで、現在に続く医療と人権の関わりを考える。

IV. 学修の到達目標

- *現代史の中で人権の問題に医療が深く関わった事例を理解し、その問題点を説明できる。
- *現在の社会において、医療の見地から人権を守ることにについて、具体的な事例を挙げて説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	7	9	水	5	イントロダクション	木 村 真 三 竹 内 高 明	2
2		16	水	5	福島第1原発事故	木 村 真 三 竹 内 高 明	1, 2
3	8	20	水	5	チヨルノブイリ原発事故	木 村 真 三 竹 内 高 明	1, 2
4		27	水	5	イタイイタイ病	堀 口 兵 剛 (北里大学医学部教授)	1
5	9	3	水	5	イタイイタイ病 (続)	木 村 真 三 竹 内 高 明	2
6		10	水	5	森永ヒ素ミルク事件	池 座 雅 之 (TV番組制作者)	1
7		24	水	5	森永ヒ素ミルク事件 (続)	木 村 真 三 竹 内 高 明	2

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

事後課題のレポート (60%), 事前課題の授業中の発表 (30%), 出席と授業への取り組み (10%) をあわせて総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は特に指定せず、事前または授業時に資料を配布する。また、必要に応じて参考図書を指示し、授業中に視聴覚資料を用いる。

VIII. 質問への対応方法

講義中・講義後に随時受け付けるほか、語学・人文教育部門室でも対応可。

部門室での質問の場合は、あらかじめ連絡を取る可。

竹内連絡先：t-take@dokkyomed.ac.jp

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後課題について授業中、全体及び個別にフィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習として、各回のテーマに関する予習を行う（20分）。事後学習として、A4の書式1枚の小レポートを書き、学びを整理する（20分）。

XII. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01, GE-04-02-02, SO-06-01-02